

全国高校ラグビー 優勝の東海大大阪仰星

石原選手(黒石中出身)が活躍

8日に行われた第101回全国高校ラグビー大会の決勝は、東海大大阪仰星(大阪第2代表)の優勝で幕を閉じた。同校には黒石中出身の石原選手(はやせ)選手(2年)がおり、決勝を含め全5試合に先発出場し優勝に貢献した。

石原選手は176センチ、103キロ。小学1年生の時に、宇部小野田ラグビースクールで競技を始めた。父・賢一さん(48)も高校時代はラグビー部で、現在は同スクールでコーチを務め、兄弟も同スクール出身のラグーマンなどというラグビー一家だ。

小学生の頃から大きな体格を生かしてフォワードとして活躍していた石原選手。今大会はスクラ

ムの柱となる右プロップで出場。準決勝の東福岡戦では、反撃ののろしを上げるトライを決めた。

決勝の国学院栃木戦ではトライこそなかったが、ボール争奪戦の場となるラックなどに積極的に関わり、後半11分に交代するまで、献身的なプレーでチームを支えた。

スタンドで息子の雄姿を観戦した賢一さんは「ミスをしたいかとほらはらしながら見ていた。この決勝の舞台で戦う姿は誇らしかった。自分がチームを引っ張る気持ちで来年も全国優勝を目指してほしい」と話した。

宇部小野田ラグビースクールの矢野竜二代表は「2年生ながらレギュラーで試合に出場し活躍で

きるのすごいこと。小学生時代も仲間を鼓舞しみんなから慕われる人間性の持ち主だった。スクールの励みにもなる」と活躍を喜んでいた。

(久保)

